

interview

本多 勇 先生



本多 勇●ほんだ・いさむ

武蔵野大学通信教育部 人間科学部 教授(通信教育部長)
医療法人社団充会 介護老人保健施設太郎 非常勤 支援相談員
東洋大学 社会学部社会福祉学科 非常勤講師
NPO全国抑制廃止研究会 事務局
社会福祉士／保育士／公認心理師／保護司
(東京)国分寺社会福祉士会理事

——武蔵野大学通信教育部では「スチューデントサクセス」の達成に向けて学修支援を行っています。「スチューデントサクセス」とは具体的にどのようなものなのか、お伺いしたいです。

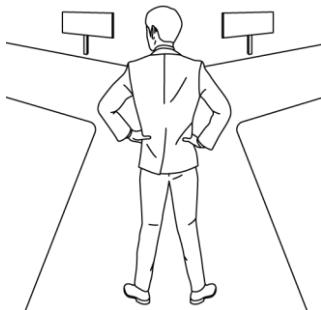
はい。「スチューデントサクセス」に関しては、学内では2つの理解があります。

まずひとつは、学生本人が武蔵野大学に入ってこういう学びができる良かったな、こういう資格が取れて卒業できてよかったですなど感じられること。そうした大学に対する満足度や、友達と楽しく過ごした時間といった学生本人のサクセスが第一。

でもそれだけじゃないですよね。だって武蔵野大学は「世界の幸せをカタチにする」を掲げているわけだから。その学生が社会において、社会と繋がる実践や活動を行っていく。通信教育部では主に社会人の方たちが学びなおすことによって、入学前と卒業後では物の見方が変わるような、そんな体験もスチューデントサクセスですよね。

通信教育の使い方は人によりますから、心理学でカウンセリングマインドを学んだり、社会福祉でソーシャルワークマインドを学んだりして、それを持って世の中と関わっていくことで、世界の幸せが少しずつカタチになる。そんなイメージを持ってもらえたたらと思います。

学問は、新しい視野を広げるためのメガネ



——本多先生は学ぶことの面白さや大切さをどのようにお考えですか。

誰かが言った「今日がいちばん若い日」という言葉があるじゃないですか、あれ、本当にそうだなと思うんですよ。これまでの人生を考えたら、自分にとって今が未来の最先端なわけだから。だから通信教育の課程で授業や実習を通して、学びを自分の中に少しずつ染み込ませていくことで、自分を進化させることができる。みんなそれがやりたいから大学に来てるんじゃないかな。だからこそ、結局は自分でやらないと進まないんですよね。

学問は、新しい視野を広げるための『メガネ』です。その専門的視点を得るメガネをしっかりと作って、そのメガネをかけて人を見れば何が見えるか？ということに繋がっていく。そこに面白さがあるんじゃないですか。だから卒業された方たちに、「あなたは何が変わりましたか？」と聞きたいんですよね。

——今、社会福祉士として活動される中で、支援員として大切にされていることはどんなことですか。

僕は社会福祉士として支援を行っているので、社会福祉やソーシャルワーカーの倫理としては、かけがえのない人としてその人を尊重する、その人の尊厳を尊重するみたいなことが書いてあるんですけど。それは簡単じゃないことです。だって、世の中には腹の立つ人っているし、関わりたくないような人っている。

この世界には戦争犯人や近しい人をナイフで刺して殺してしまった人だっていて、そんな情報に触れると差別感情が生まれるようなことだってある。でも、対人支援をする立場になったときに、それをどう乗り越えるか、なんです。

だから僕は、保育園児と喋るときも、うちの学生と喋るときも、高齢者施設のお年寄りと喋るときも、そんなに変わらない。自分に今、差別感情があるかないか、客観的な視点から自分を見る。そういう視点を持って対人支援をするようにしています。

——本多先生が社会福祉分野において支援が足りないと思われている分野はありますか。それにはどのような支援が必要かお聞きしたいです。

社会福祉だけじゃないと思うんですけど、もうどう考えてもこの少子化に歯止めはかからない。更に言えば、すでに世の中に人材不足の局面が来ていますね。

この間、ファミレスに行ったらセルフレジでしたけど、それぐらいやっても近い将来に限界がくるかもしれない。そう考えるとやっぱり日本は魅力的な国であるというプレゼンスを保ちながら、外国の方とうまく共存しないと無理なんじゃないかなと思います。

今の日本の政策は難民を積極的に受け入れる方向には全然なってないですけどね。なので、社会福祉以外の制度をまずは整えないとな、とは思います。



——最後に、今年度ご入学された武蔵野大学通信学生に充実した通信学生生活を送る上での心構えや、学修面でのアドバイスを教えて下さい。

やっぱり通信教育部での学びは学修時間どう生活に組み込んでいくかがカギになると思います。

「来週でいいか」と思っていたらあつという間に1か月が経ち、秋になっても何も終わってませんみたいなことになります（笑）。

毎日コツコツタイプの人もいれば、週末に一気にやる人もいるでしょう。MU-PLANも上手く活用しながら、自分に合った学修時間を確保していってもらいたいですね。